

ヌカボタデ

Persicaria taquetii (Lév.) Koidz.

タデ科

石川県カテゴリー

絶滅危惧Ⅰ類

国カテゴリー

絶滅危惧Ⅱ類

選定理由

石川県内では生育地が極めて限られており、個体数も極めて少ない。(現況:RO)

形態

茎は弱く、茎の上部は直立し、伏毛が散在する。葉はほぼ無柄で長披針形、両端は細まる。托葉鞘は筒状で、同じ長さの縁毛がある。総状花序はまばらで細長く、線形である。萼は5深裂し、紅色である。

国内分布

本州～九州、朝鮮半島に分布する。

県内分布

南加賀区のヤブツバキクラス域に分布する。

生態など

高さ20～40cmの一年生草本である。茎の下部は地をはい、節から根を出す。開花期は9～11月。果実は瘦果で卵円形、3稜形かレンズ形、黒褐色で光沢がある。

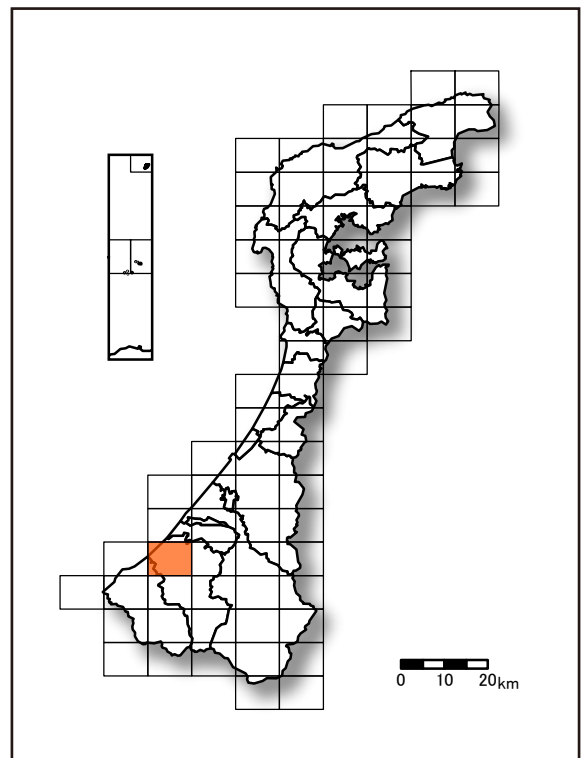
生育環境

水湿地に生育する。

危険要因

土地造成、道路工事。

写真(図)はありません。



県内の分布